



各支部が評議員会を開催

東部支部

1月15日、「エルおおさか」で、東部支部第2回評議員会が開催されました。執行部の提案のあと、参加者からの質疑では、特別専科教諭の状況、高校受験におけるオンライン出願、平和行動に関する情報共有について質問がありました。また、討論では分会の活動を紹介する報告がありました。執行部の提案に対しては、賛成多数で可決されました。

北部支部

1月16日、「大阪市立総合生涯学習センター」で、北部支部第2回評議員会が開催されました。執行部より、諸課題解決に向けての提案がありました。質疑では、中教審答申、希望を尊重した人事異動、反戦・平和の取り組みなどについて質問があり、執行部は、課題解決に向け、本部に結集して取り組むこと、反戦・平和については学習会を実施、計画していくと答弁しました。採決では、執行部原案が可決され、次年度北部支部役員選挙の選挙管理委員4人を選出し、評議員会を終えました。

西部支部

1月16日、「西成区民センター」で、西部支部第2回評議員会が開催されました。執行部より多忙化解消や、豊かな教育を取り戻すための取り組みについて提案がありました。討論では真住中分会の家原代議員より、平和・人権・共生の教育をより進めるために、組合の活動に多くの人々が結集して機運を高めていきたいとの意見がありました。採決では圧倒的多数で原案が可決されました。

南部支部

1月23日、「大阪市社会福祉センター」で、南部支部第2回評議員会が開催されました。議長には南百済小分会・山下代議員が選出され、支部長あいさつ、市教組本部、民族講師会、学生協、教共済より各来賓のあいさつの後、児玉書記長より経過報告および当面の闘争方針について提案がありました。討論では、青年部の桑津小分会・高嶋代議員よりこれまでの取り組みの報告がありました。特に秋に行った事務職員部との「給与明細表の見方」は自分のお金について考えることができたという話がありました。また、青年層の組織拡大のために冊子やニュース等で権利や制度等のわかりやすい説明を載せてほしいとの要望もありました。女性部からは清明丘小分会・中野代議員より夏に行った水俣の研修旅行での取り組み、女性部長会での取り組み、今後の予定として南部女性部長会での学習会の話がありました。採決では、執行部提案が圧倒的多数の賛成により可決されました。

北部支部 シン☆元気アップフェスタ

1月25日、天満のピンボンバーで「シン☆元気アップフェスタ」を開催しました。1学期の新歓パーティーにも使ったこの会場は、昼間に使用することもでき、また、子どもと一緒に参加できるスペースもあります。軽食や飲み物もあり、種類豊富なカードゲームやボードゲームなどを自由に遊んだり、分会の仲間や分会同士で交流する光景が見られるなど、思い思いのスタイルで支部の仲間との親睦を深めました。分会交流では職場の近況を報告したり活動を紹介したりするなど、情報交換をする貴重な機会にもなりました。長く北部支部女性部の先輩方が続けてこられた「元気アップフェスタ」を、若手の仲間も参加しやすいようにと形態を模索し、成功裡に終わることができました。今後も仲間を増やし、大きく強くつながっていく機会となることを願っています。



専門部交渉 ～少数職種の課題解決に向け厳しく追及～

2月10日、事務職員部・養護教職員部・栄養教職員部・幼稚園部は、10月7日に手交した要求書に対する回答交渉を行いました。交渉では各専門部への文書回答をもとに再質問を行い、各職場における働き方の改善に向け、市教委やこども青少年局を厳しく追及しました。

事務職員部は、代替未配置による業務支援体制が限界にきていることや時間外勤務時間増加の要因分析、それらへの具体的対策について市教委を質しました。また、システム再編成について、学校事務職員の参画と現場の意見反映を求めました。養護教職員部は中学校の心臓2次検診について、昨年度よりも平日実施が大きく減少（土曜実施が増加）していることを指摘し、就学時健康診断について市教委の回答が後退したことに対し、「法令にもとづく解釈では、必ずしも学校で実施するものではない」と断じました。栄養教職員部は、区ごとの栄養教職員の適性配置、執務室の設置、給食に関する事務連絡等について栄養教職員への速やかな説明と給食室のエアコン設置について強く求めました。幼稚園部は教員特別手当が小中学校と異なった経過について説明を求め、休養室と更衣室の設置・整備の改善を順次、行っていくよう要求しました。



3月の組合費の引き落としは

3月21日(金)

※働きがいのある職場を実現
するため、なかまの声かけで
組合員を増やしましょう！

広報部メモ

まもなく東日本大震災・原発事故から14回目の3.11を迎える。あの日に生まれた子どもたちは中学校2年生である。学校現場でもあの日のことが「過去」になりつつあるが、被災地は今も「現在進行形」である。「復興」が強調されるが、行政の言う復興と被災者の復興に大きな隔たりがある。特に福島は顕著である。全体ではなく、1人ひとりを見るという視点の大切さを痛感する。それは学校も同じ。「学校のめざすもの」が子どもたち1人ひとりのものになっているのか、14回目を迎える日に改めて考えてみたい。(K)

ウトロ フィールドワーク

2月8日、「ウトロ フィールドワーク」を開催し、組合員 19 人、民族講師会 17 人でウトロ平和祈念館を訪れました。粉雪舞う天気でしたが、雪化粧された町並みが趣深かったです。入館して1Fのフロアで副館長の金秀煥（キムスファン）さんからウトロ地区の現状と、平和祈念館設立までの歴史についてお話を伺いました。冒頭、設立にあたって行政に補助金などを依存すると、人権・平和に関するものが撤去される恐れがあるので、完全に民設民営で運営していると話されました。住民たちの歴史と日本人との協力関係をどう表現するかに注力されたようです。



金秀煥さん

見学に訪れた高校生や大学生にウトロのイメージを尋ねると、1割が親世代からネガティブなイメージをすり込まれているようです。また、2021年にウトロで放火事件があった際には、ヤフーニュースのコメントのひどい書きぶりに、住民の方たちはひどく傷つけられました。また、昨年、京都国際が甲子園で優勝した後も、誹謗中傷が相次ぎ、私立高校でありながら生徒募集の宣伝を自主



講話に聞き入る参加者

規制せざるを得ない状況に追い込まれていることに触れ、そうさせている社会が歴史によってつくられていると話されました。続いてウトロ土地問題について。戦中に軍用飛行場建設にたずさわった朝鮮半島出身労働者たちの飯場跡に形成された集落。戦後 60 年が過ぎても上下水道などの都市インフラが整備されず、豪雨になれば浸水被害に遭う劣悪な環境が続いても、ハルモニたちは「それでもここに住みたい」と訴え続けました。「差別されていてかわいそう」ではなく「差別をつくっている社会

が恥である」と日本人の市民が立ち上がり、支援活動をおこないました。2000年に住民側の敗訴が確定し、不法占拠状態になったため、住民側は国内外の募金や韓国政府の出資をもとに、土地の3分の1を購入、17年には住民が暮らす市営住宅が新設されたとのこと。最後に「分断・偏見・差別・無関心を乗り越えて、みんなが前向きに笑顔になれるよう行動することが大切です。」とまとめられました。



2F 常設展示室にて

2Fの常設展示では、パネルや展示物一つひとつを説明していただきました。3Fにはパレスチナ問題の特別展示があり、また、屋上からは隣に広大な自衛隊駐屯地が見え、（前もって知らせてくれるが）演習の時には窓ガラスが震えるほど大きな音がするそうです。駐車場横には当時の飯場を移築したものがあり、雨漏りがしたり隙間風が吹き込む劣悪な住居環境にもかかわらず、たくましく生きぬいた住民の力強さを感じることができました。参加者の感想を述べ合う時間には、ソンセンニムから副館長に、ウトロ放火犯に面会したときのこと話してほしいとリクエストがあり、犯人の青年は在日朝鮮人のことを全く知らず、ただネットで「朝鮮人は特別扱いされている。朝鮮人は日本から出て行け。」などの記事を読んだだけで犯行に至ったことが明らかになりました。また、自分の生きづらさの憂さを晴らすためなら、何でもよかったことも判りました。ネットにそそのかされ、20代で人生を棒に振ってしまったのです。改めて教育の大切さ、知ることの大切さを感じました。

終了後は桃山御陵前の酒蔵にある食事処「月の蔵人」にて昼食交流会を行いました。美味しい料理と日本酒に話がはずみ、参加者同士の交流を深めることができました。

… いっしょにふえすた …

2月1日、西成区民センターで「いっしょにふえすた 2025」を開催しました。各支部女性部や友誼団体によるブース交流によって、反原発や多様性が尊重される環境など様々な課題を共有するとともに、学習会を開いて学び続けることや、連帯して行動していくことの大切さを確認しました。退女教の朗読サークルによる発表は絵本作家・長野ヒデ子さんの「NO WAR！（戦争反対は私の根っこ！）」と井上ひさしさん作詞の「釜石小学校校歌」で、平和をまもるのは私たち自身であることを再認識しました。



ゲストには「遊びの玉手箱」代表のたまちゃんこと大塚珠代さんをお招きしました。自転車で町を回る街頭紙芝居の魅力や町での役割、また今も子どもから大人まで引きつける力を持つ紙芝居の、デジタルにはない良さなどをお話いただき、参加者全員が紙芝居のノスタルジックな世界に魅了されました。

… 近 B 母と女性教職員の会 …

2月8日、神戸ラッセホールにて「日教組近畿ブロック母と女性教職員の会」が開催されました。全体会はウイメンズネット・こうべ代表理事の正井禮子さんによる「わたちの家から～六甲ウイメンズハウス開設までの30年～」と題した講演で、阪神淡路大震災以前から始めていた女性と子どもを支援する活動から、24年に六甲ウイメンズハウスをオープンさせるに至るまでのお話でした。女性たちが置かれてきた厳しい実態を知るとともに、女性や子どもが希望をもって生きるための支援のあり方を確認し、災害支援にジェンダーの視点が重要なことも合わせて共有しました。午後は「ともに生きる社会」「子どもと人権」「女性の生き方」の3分科会に分かれて、教員や保護者からテーマに沿った問題提起がなされ、それぞれに活発な討議が行われました。

学校の働き方改革に係る意見募集のとりくみ

現在会期中の第217回通常国会（6月22日までの150日間の予定）において、給特法をはじめとする学校の働き方改革関連の改正法案が審議されます。国会に提出された改正法案や25年度の教育予算案では、学校の働き方改革や長時間労働是正の実現には不十分であり、実効性ある施策となるよう国会審議において強く求めていかなければなりません。日教組は、全国の組合員からの声を集めて国会に届けるため、「意見投稿フォーム ver. 2」を作成しました。寄せられた意見は国会や政党等に届けられ、国会審議等に活用されます。取り組みへのご協力をお願いいたします。

◇募集時期：3月31日（月）まで

◇下記 URL または右の二次元コードからアクセスしてください。

URL <https://forms.gle/4QH4aP7i7GU2Mdr49>

※職場の端末や機器等は使用しないでください。

